

## 付属資料管理仕様書

成田市立図書館

### 機能

CD、CD-ROM、DVDなどの著作権上の確認が必要なメディアの許諾及び、資料への添付管理を行う。  
 出版者などに許諾の交渉をしたものについては、依頼書をA4印刷する。  
 書誌データに「付属資料あり」「付属資料なし」「付属資料があるものとなないものがあります」を表示する。  
 自動貸出機、返却機の処理の可不可をこのフラグでチェックする。不可のものは貸出、返却させない。  
 途中で資料のみ、付属資料のみが行方不明になったときの状態管理を更新できるようにする。  
 一覧を出力できるようにする。  
 書誌データのみときでも登録など処理ができること。

### 必要情報

書誌データ(書名、巻号(通号)、著者、出版者、出版年、ISBN、著作権コード141B、ISSN、共通雑誌コード)  
 資料区分  
 館長名(リピータブルで、変更できるように)  
 担当名(現在は、「資料班」)変更できるように  
 雑誌貸出しOK出版者一覧(雑誌の出版者データとのリンクができれば良)  
 電話確認日  
 印刷日  
 回答期限日(依頼書、回答書印刷日から1ヶ月-1日)  
 依頼書、回答書送信日  
 可不可区分  
 理由(テキスト)  
 所在区分  
 最新処理日、除籍日、不明日  
 メディア区分5つは必要、リピータブルでOK  
 点数区分(数値入力でOK)  
 資料番号(書誌の)  
 装備区分  
 書誌タグに独自タグ「付属資料」を作る。(図書、雑誌)  
 自動貸出・返却機可不可区分

### 業務フロー

登録対象  
 図書、雑誌についてきた全ての付属資料(メディア)  
 図書は新刊全点案内に付属資料の表示があり購入するもので、図書館貸出不可となっていないもの  
 雑誌は、受入時に付属資料があるもの  
 ただし、  
 雑誌は、受入時に付属資料があるもので、最初から出版者がすべてOKといっている雑誌は問合わせしない。  
 雑誌の付属資料は、本館のみ分館は付けなくて受入、運用するので所在区分「なし」を追加する。このときは、返却時のメッセージは出さない。(付属資料がないので)同一書誌でメッセージが違うものがあるということ。

問い合わせするもの	最初からOKのもの	状態	可不可	所在区分
書誌確定 ↓ 付属資料管理システムに登録	書誌確定 ↓ 付属資料管理システムに登録	未処理		
↓ 出版者に電話確認 ↓ 付属資料管理システムに電話確認日登録、依頼書、 回答書出力。回答期限日セット(1ヶ月-1日)	↓	問い合わせ中		
↓ 依頼書、回答書をFAX送信(文書送信日を更新) ↓ 回答(期限日過ぎリスト出力)→理由登録を登録 貸出可否	貸出可へ	処理済	貸出可 不可	
↓ 貸出可のみ装備、貸出へ 貸出不可も本のみ受入貸出することあり 本館分館所蔵雑誌の場合、分館分は付属資料つけない	↓ 装備、貸出へ 装備、貸出へ  装備、貸出へ	あり あり  あり	  貸出可	あり なし 「あり」「なし」が混在。

資料受入後の運用	状態
付属資料が不明→更新処理で、「付属資料のみ不明」	付属資料のみ不明
資料不明にすると、付属資料不明にするか問い合わせ→「付属資料だけあり」	付属資料だけあり
除籍をすると、付属資料も除籍へ(除籍日セット)	除籍
不明にすると、資料も不明、最新処理日更新	不明

### 貸出

カウンター貸出:メッセージ表示される「付属資料、メディア、〇点あり よろしいですか?」Y or Nで、Yなら貸出、Nなら貸出できない。

自動貸出機貸出: 自動貸出機可なら貸出、不可なら「この資料は自動貸出機では貸出できません。カウンターで手続きをお願いします。」とメッセージが出て、貸出できない。

#### 返却

カウンター返却: メッセージ表示される「付属資料、メディア、〇点あり よろしいですか？」Y or Nで、Yなら返却、Nなら返却できない。

自動返却機: 機械可なら返却、不可なら「この資料は機械では返却できません。カウンターで返却をお願いします。」とメッセージが出て、返却できない。

#### 書誌データ

第5次図書館システムでは独自タグ917Fにセットし、限定子OAMを振って検索対象とした。  
可不可区分が、1「貸出可(許諾済)」、2「貸出可(記載あり)」、3「貸出可」で更新したら、「付属資料あり」を作成する。  
可不可区分が、1「貸出可(許諾済)」、2「貸出可(記載あり)」、3「貸出可」で、かつ、所在区分が1「あり」の資料と、2「付属資料のみ不明」4「除籍」5「なし」の資料が混在して2、4、5がOPAC表示ならば、「付属資料あり」を削除して、「付属資料あるもの」とないものがあります」をセットする。

可不可区分が、1「貸出可(許諾済)」、2「貸出可(記載あり)」、3「貸出可」でも、OPAC表示の資料の所在区分が2「付属資料のみ不明」4「除籍」5「不明」5「なし」だけになったら、「付属資料あり」を削除して、「付属資料なし」をセットする。

可不可区分が、4「不可」と更新したら、「付属資料あり」を削除して、「付属資料なし」をセットする。  
データ削除時も「付属資料なし」をセットする。

#### 帳票

依頼書、回答書、リスト(回答期限日、資料区分、不明日、除籍日で抽出(個別、範囲、すべて)できるように)

付属資料管理仕様書

成田市立図書館  
装備区分

コード	表示
0	装備せず
1	別装備
2	合装備
3	一部合装備

点数区分

コード	表示
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9
10	10

メディア区分

コード	表示
0	その他
1	カセット
2	CD
3	MD
4	DVD
5	ビデオ
6	FLOPPY
7	CD-ROM
8	DVD-ROM

所在区分

コード	表示	備考
1	あり	
2	付属資料のみ不明	
3	付属資料のみあり	資料の不明区分に連動する。
4	除籍	
5	不明	
6	なし	最初からつけない場合用。雑誌または不許可分

可不可区分

コード	表示	備考
1	貸出可(許諾済)	問い合わせをして確認したもの
2	貸出可(記載あり)	書誌データに記述のあるもの 141Bタグに「P0」とあるものは セット
3	貸出可	問い合わせの必要のないもの
4	不可	

自動貸出機不可区分

コード	表示
1	貸出可
2	不可